平成22年度第１回みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会　議事録	
開催日時	平成22年６月11日（金）午前９時30分から11時50分
開催場所	緑区役所２階　第一会議室
出 席 者 （敬称略）	村井祐一（委員長）、松岡美子（副委員長）、市木智子、松浦正義、吉田英二、鈴木正二、小林伸子、長嶋昭美
欠 席 者 （敬称略）	柳下利一、中島光明
議　題	(1) 今年度のスケジュールについて (2) 第１回地区別計画策定委員会について（報告） (3) 区計画基本案について（意見交換） (4) 各種事業の進捗報告 (5) その他
資　料	(1) 委員等名簿 (2) 平成22年度　プラン推進策定スケジュール (3) 地区別計画策定委員会通信No.1（10地区） (4) 第２回地区別計画策定委員会　日程一覧 (5) 平成22年度　地区支援チーム　一覧 (6) 区民アンケート　地区別集計資料 (7) 区計画検討資料 (8) 事業進捗報告資料
決定事項	・今年度スケジュールを確認するとともに、地区別計画策定委員会の開催状況等について事務局から説明を行いました。 ・事務局が作成した資料をもとに、前回委員会で確認した区計画基本案について、第２期区計画の構成を中心に意見交換を行いました。
議　事	１　開会（事務局） ・福祉保健センター長挨拶 ・定数確認 ２　委員等の交代について（事務局） ・緑区連合自治会長会代表　井上委員から柳下委員へ交代（資料1） ・異動のあった区職員、事務局職員の紹介 ３　議事（委員長） ・委員長挨拶 （村井委員長）　小地域の福祉を中心とする第２期地域福祉保健計画ということで、各地域において地区別策定委員会が既に始まっています。この地区別での委員会活動が非常に重要な役割をもっています。参加者そのものが推進者として期待される点、またこのような地域に密着した取り組み、いわゆるアウトリーチと呼ばれる、福祉保健センターの中だけではなく、職員が地域に出向いて行くことで住民とふれあい、相互理解をしていく点、こういった地域に根ざした活動によって地域の特性を理解しながらお互いに顔見知りの関係になり、信頼関係を通じた地区毎の地域福祉保健計画の策定が望まれるところです。圏域としては中学校圏域と呼ばれる大きなエリアですが、その中でさらに小さな圏域の問題を解決していけるような仕組みづくりを考えていきたいと思いますし、絵

	に描いた餅ではなく、実行することで実際の成果を上げていくための計画として少しでも実務レベルのものを作っていきたいと思っております。そのためには地区の意見を集め、それを私たちが「区域」という視点でどのように支えていけるのか、地区計画をどう支援していくのか、それが重要なポイントだと思います。ぜひ忌憚のないご意見を頂き緑区の実際に即したさまざまなご発言をいただければと思います。どうぞよろしくお願いします。 ・副委員長（井上委員）の後任について （村井委員長）　委員交代に伴う副委員長の指名については、次回委員会での議事とします。 (1) 今年度のスケジュールについて 今年度のスケジュールについて、資料２に沿って事務局より説明 （村井委員長）　区計画と地区別計画、そして関連する取り組みについて説明がありました。特に地区別計画と推進策定委員会とは連動する日程となります。地方自治という視点もあると思いますが、今年度は小地域の実態にあった、それぞれの生活圏域で実際に起きている問題を発見し、解決に向けて取り組み、行政や社協、地域ケアプラザが小地域をバックアップしていく仕組みを考えていくことになります。 (2) 第１回地区別計画策定委員会について 地区別計画策定委員会の開催状況等について、資料３、４、５、６に沿って事務局より説明 （村井委員長）　小地域のそれぞれの推進状況について、ご意見等お願いします。 （長嶋委員）　地区別計画策定委員会は、委員として傍聴は可能ですか。 （事務局）　オブザーバーとして参加は可能です。 （村井委員長）　区計画と地区別計画との整合性を取るためにも、可能であれば委員のそれぞれの地元を中心にご参加頂き、次回委員会でご提言をいただければと思います。 （松浦委員）　通信については町内の班回覧が行われているところですが、区民の方がどの程度ご覧になっているのか、自治会の定例会でも確認してみます。もう一つは、元気な高齢者、特に定年退職者を含めた60代以降の男性ですが、農家の手伝いをしている人たちが地域で見受けられます。そういう人たちに対して、こういうサークルがあるとか、こういう事業があるとかという紹介もしていかなければならないと思っています。こうしたことが切実な問題だと言う人もいます。 （村井委員長）　地域デビューのきっかけづくりについては、第１期計画の中にも、機会と場を提供し人材育成・人材発掘につなげていこうという仕組みがありますが、区域だけでなく小地域でも具体的に求められているというお話かと思います。自治会レベルで福祉部のようなものができて活動が広がり、小地域の中でノウハウが共有されていくということが理想的だと思います。小学校圏域よりもっと小さな圏域でお互いが支えあえることが本来の地域福祉の目指すところかと思いますが、ちょっとした困りごとを支えていくには地区社協圏域では対応できないところもありますので、それが可能な圏域としての自治会の取り組みが一つのキーだと思います。

	（松岡委員）　「いっぽ」は十日市場中学校の中学生を受け入れていますが、中学生を受け入れている団体は、一般の大人のボランティアの受け入れも可能なところだと思います。例えば公園愛護会や地域の昼食会など、地域の中にボランティアの受け入れが可能な団体がまだまだ存在していると思います。問題はその受け入れ先と一般の方とが、どのようにしたらつながることができるのかということだと思います。つながっていく方策として、プランのＰＲや、知り合うきっかけづくりが必要だと思います。 （村井委員長）　もう一つが世代交代です。同じメンバーが継続的に会の運営に携わっているため、次の世代が育たないと悩んでいる団体があります。スムーズな世代交代を支援することができるかどうか、それぞれの団体の覚悟というところがあるかと思います。そのような状況に対する支援についての情報提供はできるかと思います。区内での共通課題として認められるような状況があれば、地域デビューや人材発掘、地域情報のコーディネートについて、重点課題に位置づけることができるかと思います。また、委員が 11 地区全てに出て行くことは難しいかと思いますが、例えば委員が合同で地域ごとのキーマンと意見交換をする、もしくは頂いた意見を事務局が整理し委員会で検討する機会を設けるといったことも重要かと思います。間接的なコミュニケーションではなく、直接的に近いコミュニケーションで連携していく方法もあるかと思います。 （吉田委員）　地区別策定委員会通信については、各地区で班回覧が行われていますが、他の資料と一緒での回覧では地域の方の目に留まることはなかなか難しいと思います。地域で行ったアンケート結果を見ても「知らない」という声が依然として出てきます。重複したＰＲが必要で、区全体の中でも考えていかなければならないと思います。 （村井委員長）　基盤整備的な共通問題を区域のレベルで解決していくというところは重要かと思います。地区毎のニーズで同じものがあれば合同で解決を図るとか、話し合いやワークショップを行ってノウハウを共有していくなど、効率的ですし、沢山のアイデアや知恵を得ることができますし、地区ごとの横のつながりも生まれるかと思います。ＰＲ不足については、継続して取り組む必要があります。委員を含め、関係者全員がどこでもＰＲが行えるように、リーフレットなどのツールを作成することも検討が必要かもしれません。民生委員が訪問時に配布できるものや、ケアプラザ来館者に対するチラシ、機会・イベントなどでの隙間の時間を利用してのＰＲ活動などが必要かもしれません。 （長嶋委員）　区の広報でもＰＲを継続する必要があると思います。 （松岡委員）　「みどりのわ・ささえ愛プラン」という文字を繰り返し掲載していくことでも、区民に対する浸透度が高まると思います。また、チラシよりもリーフレット形式でお渡しできる資料があると、相手の手元に残りやすく、効果が期待できると思います。 （事務局）　プランの策定時だけでなく、第２期計画の推進の際もＰＲが必要だと考えております。区の広報においては、特集記事のみではなく、囲み記事レベルでの掲載も可能です。推進を行う 23 年度に向けて検討を行います。リーフレットについても内容について検討を行います。 （村井委員長）　相模原市では、市社協がタウンニュースに福祉の情報を掲載しています。定期的に掲載することで、反響が返ってきているようです。また、若い世代に対してはホームページが有効です。スマートフォンの利用も広がってい

	ます。紙媒体にはＵＲＬやＱＲコードを掲載し、ホームページへの案内を行う必要があります。また、資料 5（地区支援チーム一覧）に関連しますが、民生委員の「苦しみ」という話を聞いたことがあります。人事異動等で担当者が交代すると、やり方が変わり、一からの説明が必要になるという話です。地区支援チームを組み、課を超えた体制で地域を支援するということは大変な業務かと思いますが、地域の方が失望しないように、確実な引継ぎを行っていただきたいと思います。資料 6（アンケート資料）について、地区毎の回答数が少ないので地区の総意と捉えることはできないですし、アンケートの回答者は福祉に対する多少思い入れがある方々が多いかと思いますが、傾向を知るということでは参考になる資料かと思います。 (3) 区計画基本案について 第２期区計画の構成や、基本目標毎の「目指す姿」等の記載について、資料７に沿って事務局より説明 （村井委員長）　別紙で行なうことも可能ですが、地区の人口、活動団体数などの地域アセスメント情報や、これまでの実績に関する情報の表現も必要かもしれません。「目指す姿」を一つの理念として表現する考え方について、またレイアウトについてご意見を頂ければと思います。 （松岡委員）　「目指す姿を実現するためのキーワード」に掲載する言葉やキャッチコピーも重要かと思います。 （事務局）　「キーワード」については、「具体的な取り組み」欄の整理と合わせて、今後、ご意見を頂きたいと考えております。 （松岡委員）　「目指す姿」という言葉は硬い感じがします。「こういうふうにしたい」「わたしたちのまちがこうなったらいいな」というやわらかい表現で伝えることができたらと思います。読んでもらうための工夫として、この資料を「誰に向けて」の冊子にするのかを検討する必要があると思います。支援者向けの資料なのか一般の区民に向けた資料とするのか、「テキスト版」なのか「普及版」なのかという点です。 （事務局）　行政計画という位置付けもありますので「テキスト版」というレベルを考えています。また、これをもとに「普及版」を作成したいと考えております。 （市木委員）　誰に向けた資料かというところは気になるところです。「オトナの一期一会」に参加しておられるような、ボランティアなどで、普段はそれぞれの仕事に従事しながら地域に密着した活動を行なっている方々に対して読んでもらえるのかという点です。一般的に「計画」というと、そのイメージが「かたい」「読まない」「わからない」というものになりがちです。もう一つ思うことは、書いてあることは理解できるが、実際にどう動いたらよいのかという点が見えてこないです。活動の「入口」「きっかけ」となるような内容を示す必要があると思います。 （村井委員長）　コーディネーション機能、つまり、この冊子を見て活動しようと思ったときに、どこに連絡すれば行動につながるかというような機能が求められているということかと思います。全ての連絡先を記載することは難しいかもしれませんが、コーディネーションをする機能を意識して冊子を作りたいと思います。 （小林委員）　この案だと、「目指す姿」が何年から何年までの取り組みであるかとい

う点が読み取りにくいかと思います。また、「現状」欄についても、いつの時点での「現状」なのか、表現したほうがいいと思います。

（村井委員長）　この資料は第２期計画の冊子の一部分になるものです。冊子の前段では計画の全体説明が記載されるので「期間」の問題は大丈夫かと思います。ただし、この部分だけがコピーされ単独で使用されるとわからなくなるおそれもあります。

（鈴木委員）　「目指す姿」は非常にわかりやすくよく出来ている案かと思います。

（村井委員長）　「目指す姿」という表現を「わたしたちのめざすもの」とか、「わたしたちが求めているもの」「緑区の福祉が目指すもの」「緑区のいま」など、やわらかい表現で、ただし簡単過ぎずに硬くなりすぎない程度となるように事務局と検討したいと思います。

（松浦委員）　「具体的な取り組み」欄と、地区別計画での地域ごとの取り組みとの関係についてはどのようになりますか。

（村井委員長）　基本的には地区別計画と区計画とが相互に行き来する形になると思います。地区別計画の策定と平行して、区計画の枠組みを考えている段階です。地区別計画の策定においては、基本目標を意識して検討を行っていただくということになります。共通的な課題については区計画において検討課題になるかと思いますが、地区ごとに課題は異なってくるかと思います。

（松岡委員）　「今までの地域の取り組み」欄を「現状」欄に入れ込む必要があるかという点が気になります。「今までの地域の取り組み」に何を抽出していくのか、この限られたスペースに入れ込むことは難しいのではないか、あくまで「現状」のみとして、「今までの地域の取り組み」は枠の外に出したほうがいいかとも思います。

（事務局）　第１期計画期間で取り組んできたものを、評価も含めた「現状」として記載したほうがいいかと考え、案を作成したところです。

（村井委員長）　第１期はここまで取り組みました、第２期はこう引き継いで行きたいというところになると、「第１期までの取り組み」や「新しい取り組み」と表現したほうがいいというご意見かと思います。

（市木委員）　「これまで」のことなのか、「これから」のことなのか、「現状」と「取り組み」について時系列を整理したほうがいいと思います。地域の方の取り組みを抑える結果にならないように気をつけて、むしろ「方向性」を示す内容になるように構成する必要があるかと思います。

（村井委員長）　「具体的な取り組み」については、例えば「第２期計画での取り組み」でもいいですし、「これからの取り組み」でもいいかと思います。「現状」については「これまでの」「第１期計画からの状況」といった表現など、検討が必要かと思います。

（吉田委員）　「目指す姿」が誰に向けてのものなのかという点ですが、一般的には区民全体ということになるかと思いますが、現実に推進している各団体、自治会、社協、民生委員などの団体が、それぞれがこういうところを目指して取り組みを行なってほしい、という形で発信するということになるのかと思います。組織に関わっている方々に資するような内容にしていきたいと考えます。また、「現状」の欄ですが、各地区の「現状」にばらつきがある中で、区全体の「現状」を表現することはかなり難しいと思いますがいかがでしょうか。

（村井委員長）　例えば、地区別計画が策定される中で明らかになったり、アンケー

	ト結果から明らかになったりする共通事項の部分について、それを区域全体で見られる共通の課題ということで「現状」を表現するのかもしれません。 （松岡委員）　地域によってばらつきがあります。高齢化が進んでいるところもありますし、新しい世代が住んでいる地域もあります。地域の課題がいろいろあるというように表現したほうがいいかと思います。また、「目指す姿」の表現が、例えば「あいさつ運動」や「参加すること」という表現になると、地域によっては既に取り組んでいる内容と重なり、ある程度、答えが出ているというイメージになってしまい、既に出来ているんですね、というようにとられかねないことになります。まだまだ現状では取り組みが少ないというところを言っていかないと、「いいこと」で終わってしまうかと思います。 （村井委員長）　区計画の枠組みの整理をしたいと思います。基本目標のもと、「現状」と「第１期での取り組み」あるいは「進んでいるもの」、第２期で「目指す姿」、第２期での「具体的な取り組み」ということになるかと思います。「現状」の欄については、区域のレベルで一般化できるものを掲載したいが、一方で様々な現状の地区がある中で、「つながり」一つをとっても地区ごとに異なる状況があります。ただ、あまりに一般化した内容を示してもあまり意味がないかと思います。小地域から上がってきた実態を共通化して区域の中での共通基盤として課題をとらえる、緑区の共通課題として精査しないとつじつまあわないのかなと思います。地区から上がってきた共通課題を映し出して「現状」とする表現にするのが一番いいのかなと思います。「各地区から寄せられる地域の課題」などの表現とし、地区から上がってきた情報の多い順に掲載したほうが、一般化あるいは個別化しすぎないということになるかと思います。また、「今までの地域の取り組み」を「第１期での推進状況」という表現で今までの地域の取り組みを記載するのかなと思います。 （鈴木委員）　各地区での取り組みも違いますし、地域の実態にあったものをつくるというほうがいいかと思いますし、地区別計画の策定にも生きてくるかと思います。 （村井委員長）　「目指す姿」以下のフレームについて、「それぞれの地域にこのようなものを作っていく必要がある」という表現で全体を構成するということ、それを区としても共通的にバックアップしていくという表現になるかと思います。 　地区別計画策定が一定程度進んだ段階で「現状」欄については再検討することとし、今回は「目指す姿」の文言を整理していきたいと思います。 （基本目標１） ・　「それぞれの地域の実情にあった」「それぞれの地域の中で」とか、地域毎の独自性を発揮しながら、取り組みを行なっていく必要があるという表現 ・　まずは「身近な住民同士」から広がっていく、「隣近所から」というイメージ （基本目標２） ・　「今までの地域の取り組み」欄について、「仕組みづくり」という言葉で終わるのではなく、何が進んだとか、始まったなど、具体的な地域の事例を入れたほうがいい ・　「支えあえる」を「身近で支えあえる」とし、小地域でとらえる表現にするほうがいいのではないか

	（基本目標３） ・　「情報提供」「実施」について、具体的な事例や進捗を表現したほうがいい ・　「同じような目的」を持つ人たちの活動が充実するような場の確保が重要 ・　同じような目的を持たなくても、いままで関係のないと思っていた人たちが触れ合う機会をつくることも重要 ・　「世代を超えて」にこだわる必要があるか。世代に限定せず、「さまざまな住民が」くらいの表現がいいのではないか。 （基本目標４） ・　「発行」「実施」についても、具体的な事例や進捗を表現したほうがいい ・　「身近な」地域で提供されることが重要 ・　「それぞれのニーズに応じた相談先の情報」という表現がいいのではないか ・　「身近な相談先」という表現が、小地域をイメージしやすいのではないか （基本目標５） ・　「行き交う」というよりは「くらす」「生活ができる」という表現がいいのではないか ・　「移動が困難な方でも、身近な地域の支援を受けて、行きたいところに行ける」という程度の表現がいいのではないか ・　「誰もが自由に外出できるまちづくり」はどうか 全体の整理を行ないましたが、この内容については、区域の計画ではありますが、小地域で受け止めてもらえるメッセージとなる、ということを確認したいと思います。 (4) 各種事業の進捗について 資料８に沿って事務局より説明 (5) その他 ア　次回の日程について 平成 22 年８月 25 日（水）午前９時 30 分～11 時 30 分 緑区役所第１会議室にて イ　子育て支援拠点「いっぽ」からの情報提供 (ｱ) 「ウンダバーチット」　平成 22 年７月２日（金）緑公会堂にて 第１部　いっぽ・パパスクール開校プレイベント 「ぼくの子育てはめちゃくちゃだったか？」 第２部　おおたか静流ライブ・田島征三トーク (ｲ) 障がい理解講座【映画上映会】「ぼくはうみがみたくなりました」 平成 22 年７月９日（金）「いっぽ」にて ３　閉会